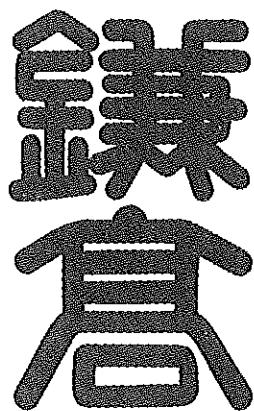


鎌高新聞「につさか」

100号記念縮刷版



神奈川県立鎌倉高等学校

発刊によせて

鎌倉高校創立五〇周年に当り、今までの本校發展の歴史をまとめて記録に残す一環として、本年丁度一〇〇号を迎えた学校新聞「につさか」の復刻再版が最も価値あるものではないかということになり、ここに創刊以来の学校新聞「につさか」の復刻を見にいたつた。「につさか」は昭和二八年にざら紙四面の謄写版刷りで始まつたので、数えて二五年長い鎌高の歴史の後半を鎌高とともに生きつづけてきたことになる。「につさか」は生徒活動の総合的な記録と言えるから、この外いろいろなグループごとにその部の消長、盛衰の記録をまとめることが出来る。その時にはこの新聞は貴重な資料を提供するものと考える。学校新聞「につさか」はこのよき意味においても生徒の活動の記録の基礎として誠に貴重なものであると考える。またこれを先駆として鎌高生の学校生活のあとづけが次々に具体化することを期待している。

このよき記録は鎌高生に共通の話題を提供する。同じ年頃だった頃、時こそ違え同じ場所を舞台にして同じような問題に取り組み格闘した記録は仲間意識を助長する上で極めて有効な働きをするものと考える。人と人との結びつきは、このような契機にもとづくことが多い。卒業生にとっては、純粹でひたむきだった頃、人生一度と来ない高校生の頃の記録は感銘深い印象を与えることと思う。生徒とともに喜び、生徒とともに苦労した先生がたにとつても當時の貴重な体験が思い出されるだろうし、在校生にとっては数千人にも及ぶ卒業生のかずかずの足跡は前者の轍として得がたい教訓をもたらすと思う。

それにしても二五年の長きに亘つて、新聞の発刊を続けた新聞部の皆さんと指導に当つた先生がたの労苦は大変だつたと思う。とにかく号数は一〇〇号創立五〇周年を期し一区切をつけて全号を一巻に収めで今回新たに多くの人に眼を通して頂くことは永年の苦労の甲斐があつたことと思う。また資料の散逸の少なかつたことも幸運だつた。まだ多少資料の欠損の部分があるようだがこれを機会に現れてくることを祈つてゐる。今後もまた一〇〇号、三〇〇号の発刊に至るまでの大役をこれから新聞部の皆さんにお願いする。こうしてまとめて見ると新聞とその記事の大しさが極めて鮮明に浮き上つてくる。新聞は学校にとつてその時々の用に立つだけでなく、歴史的な史料としても重要な役割りを果たす。特に生徒の活動の記録はこれ以外にあとは残るものは殆んどない。記事として何を取り上げるか、どう取り上げるか新聞編集のイロハの事柄が大きくあとに響いてくる。どうか新聞部の皆さん幅広い、公正な取材を試み、今後も鎌高の歴史に貴重な彩りを添えるよう希望する。

昭和五三年八月一日

学校長 三 波 実

創刊当時の記事を散見すると、もうすでに鎌高としては二五年も経つてゐるはずなのに紙面には学校を新設校と呼び、新しいものを作り上げていく草創期の不安とか期待とかがうかがわれる。これは思ひもよらないことであつた。当時の実感としては七里ヶ浜の地に全く新しい高校として産声を上げたつもりだつたのも知れない。そうすると鎌高は五〇年生ではなくてまだずつと新しい二五年生くらいかも知れない。いずれにしても創立当初の独立校舎もないしかも一〇〇人程度の生徒数の学校と比べると時の差はあるにしても今日千数百人、多くの堂々たるコンクリートの校舎、二万坪に近い広い敷地の現在の高校とはまさに隔世の感がする。当時とは比較にならぬ重厚な雰囲気、たたずまいをしみじみ感ずる。今日に成長するまでの各方面のご尽力に心から感謝するとともに、五〇年の足どりを単なる語り伝えで終らせることなく、これを機会にわれわれとしては、今日以後長く成長し続けるであろう鎌倉高校の将来の雄大な展望に資するものにしなくてはならないと思う。最後に今回「につさか」復刻に当つて資料の収集、整理、印刷に関してご尽力下さった方々に衷心から御礼を申し上げる。

百号記念縮刷版発刊にあたつて

タイムマシンで自分の生きた時代をさかのぼれるといわれば、多くの人は君達の年代を希望するだろう。今君達は体力も柔かい頭も持つ人生の一番晴やかな時を過している。まづ体力がなければこれから国際社会に生き残れない。次に知識や技能これは好奇心さえあれば個人で何時でも得られる。だが今の君達でなければ得られないものがある。

私は結婚披露の時、古くからの友人の順に祝辞をもらつた。列席いただいた映画評論家淀川長治先生が彼等の話を聞かれた後、「この子は幸せな子だ、幼稚園から小・中・高・大学の友達皆から祝われて……」と述べられた。

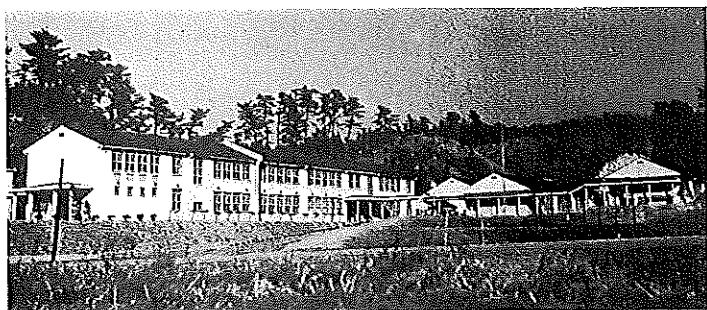
若かった私は当時友達の価値が判らなかつた、だが最近学校時代の友達とは有難いものだとつくづく思う。君達は今意識せずに多くの友に会つてゐるが学校時代に得る友は生涯の友、良き友を選び、良き友に選ばれよう。学友の協力があつてこそ縮刷版もできたのだ。

二十年前の高校生活に君達がいかほどの興味を示してくれるか心もとないが、各号にはそれぞれの若さがある、『青春時代は後からしみじみ想うもの……』という歌の通り、OBやOGには今、君達にとっては十年後かもしれない、高校時代の話題の橋渡しに『につさか』縮刷版が役立つてくれることを確信する。

最後に発刊までの全推進者で新聞部顧問の高橋満夫先生に心からお礼申し上げます。

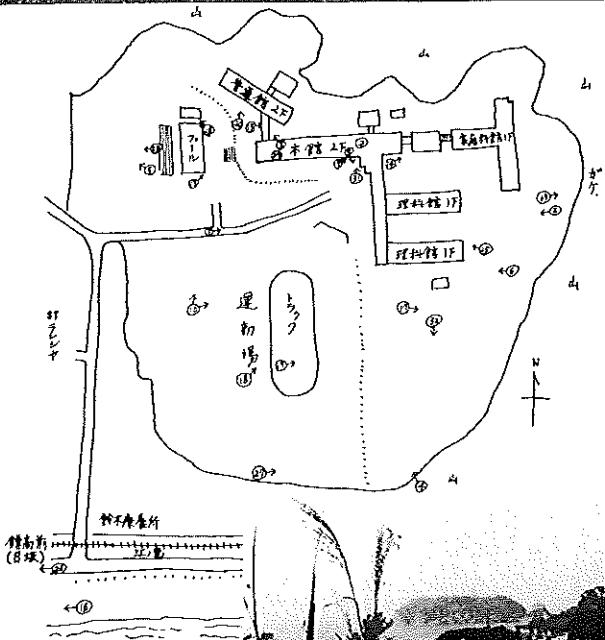
新聞部OB会長 今村 潮（七期生）





子真寺集

につさか誕生の頃



校舎内の番号矢印は写真撮影場所です。



- ▲ すすきと山百合は鎌高名物、運動用具小屋、江の島が見える。
- ▼ 鈴木(賢)先生(左)と江口先生、7回生の関西四国方面の修学旅行で。



▲ 本館1階玄関そばに事務室と校長室があった、左から小林副校長、斎藤、伊藤、山本、阿部(和)の先生方。

▼ 喜びも悲しみも、入学試験の発表が掲出されている
る、講堂がなく、この場所で朝礼も生徒総会も行
われた



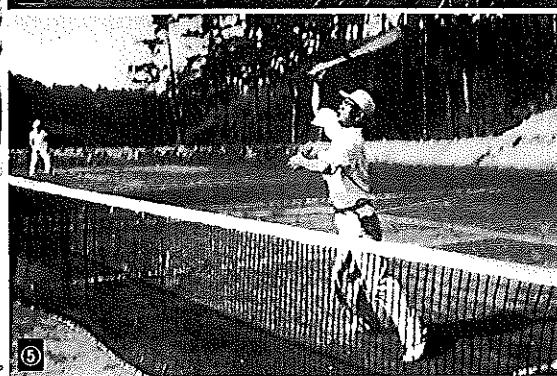
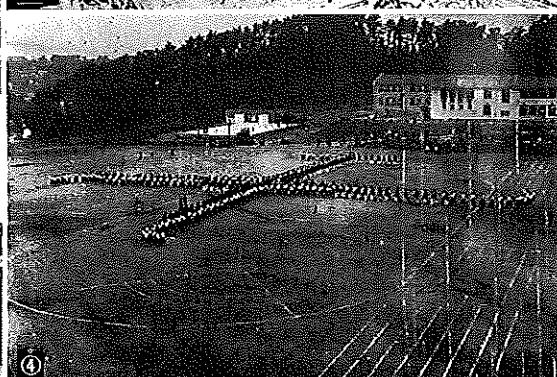
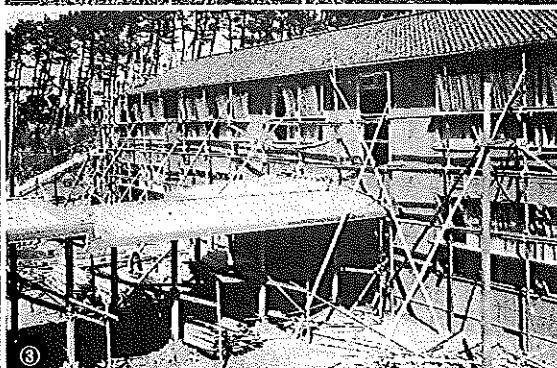
① この辺で連絡者は校長先生につかまり、服装とか帽子、バッヂ等の検査をうけた。

② なにかスボーツをする時は畠後の土地をなしてまづ場所をつくった。

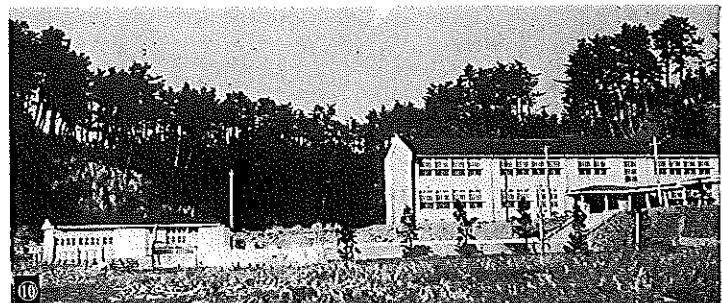
③ 建築中の普通館、木の足場が組まれている本館2階より。

④ 学年全員によるプロムナード、当時は5クラスで1学年250名。

⑤ 生徒と真剣に勝負されている城校校長先生。







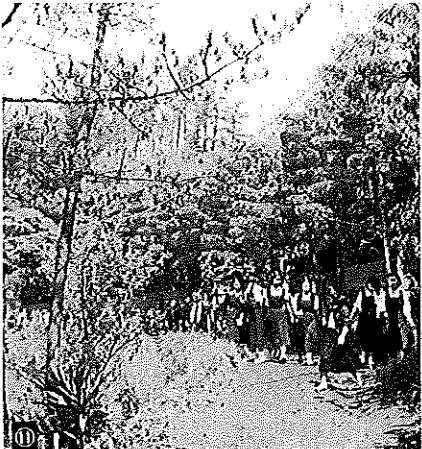
旧地名「日坂」にちなんで命名された学校新聞「にっさか」が100号を迎えた。現新聞部顧問高橋先生の発案で、縮刷版を制作することになった。そこで新聞部OB校友を通じて新聞部で保存されていない欠号を埋めることになったが、どうしても残見できなかった号がある。

特に昭和29年11月から30年6月頃に発行されたと思われる7・8号を残すことは、ほとんど不可能と思われる。当時の新聞部と写真部が撮影し残すが今村が保存していたもの約800枚から、その頃の様子が比較的わかるものを選び、新しく引合しをした。これを機会に未残見の「にっさか」が現われることを祈る。

⑩ 学校前浜辺で、木村先生と7回生、江の島にはまだヨットバーはない。

⑪ フォークダンスの練習、男女が半々だったの

で、あわてて男生同士という悲劇はなかつた。

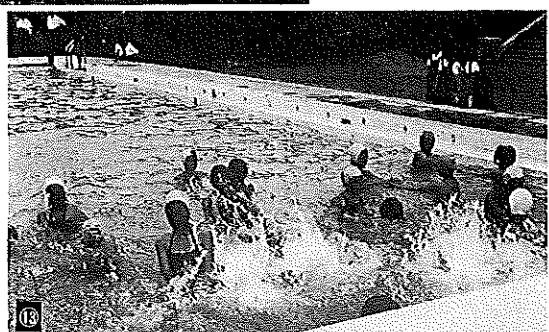


⑫ 見開きは当時の校舎、ワイドレンズはなかったので、フィルム2枚で撮影。

⑬ 春5月1日は、先生メイナー、ボクたちは歩こう会。まだまだ緑の濃い鎌倉山。

⑭ 今は無くなつた校舎の内部、仮装行列の頃備をしているところ。教室内は木造部分が多く、電灯も白熱灯だ。

⑮ 完成したばかりのプールでの授業、檻はない、スタンドも固体水球で使用するためにその後につくられた。



⑯ ダンスは女性の方が上手本番中なのに男性はどこを見ているのか。

⑰ グランドで騎馬戦が始まるとき客席はガラガラ、在校生全員で750名。

⑱ 仮装行列は各クラスとも力を入れた。今井先生（左から4人目）と。

⑲ 当時の世相が仮装行列にも現れている。

⑳ これも時代を反映した名前がついていた、「国際平和パレード」というのがその題名。



●にっさか提供者、()は卒業年度

原 弘之輔 (31) 今 村 潤 (31)
坊 城 弘 幸 (32) 庄(田上)綾子 (32)

●協力者

松林竹雄先生・水野正先生・石渡英雄先生
田 口 雅 巳 (31) 角田(坂本)紀子(31)
丸安(佐波)朝子(31) 甘 爽 博 史 (43)

●中扉・写真特集制作

田 口 雅 巳
(画家・日本美術家連盟会員)
坊 城 弘 幸
(東洋信託銀行)
福 岡 喜 德
(NHK美術センター)
今 村 潤
(エイムマーケティング)

鎌高文化祭特集

就高弟一回不來。
今月一、二日、三月
乃三日間に致つて、本
校、鎌倉市天公民館にて
於で行われた。午後二
時では、生物部主催の

第一回

宗是利害に及ばず、既行
其貢賦、多貿易、或云
二丙不至之矣。公自之。今
經開食も行の承た。

哺乳動物解剖

馬鹿、鉢もでは珍らしく、いくら駄が付時計で、運びだ。組合様はアレし、パラートを作り始め、

かめこの人々がした
ことを思ふと、平生に興奮
したいところの人が、また
外の何分の一毫も仄
つかと考えさせられ
どつちにしろ、解剖

三階近くには、窓を完全に遮るしていた。眞に研究したいと思つて、他人をあだために、蓋のあらんことを斬つて筆をおく。

X X X
に底盤フアンを轟は
た。長時間にわたつ
見て行く者、数分で
行く者など、多種
あるが、

音楽会

してテナーバスが人裡とは無理矢合ひだつた。次に妻が合唱でいいこは、全て二部合で終つてしまい物語がつた。何れに

10

が角質性のもの方に
したいと思つ
生動部
生動部としては、次曰
射にあつたために、小
管、海葵になつて、擴張
したものが、その裏側の
筋肉の筋に、海綿状を
含むする。
鰓副鉤
鰓副鉤は、底足として水
に日光養、肩鰓風呂、腋窓の今俗の弓針とし
ぬ舟矢及び之を表すて、次に、矢字第一に脣斧
これからは、今日の矢、既成の弓等である鱗導管
自古、袋管の名なし、と表現するべく、努力
を失はず努力を失へ、矢
に二種の袋管名を前歯
したいと言えども、
方から矢堅木次方で方
↓三五下片部へ↑

いとあるが、
あつたところか
合図日、ブラン
れでない限り、め
然と夏室はかみの
きので、かきをさ
しまった形である
生の中でも、アーヴ
が三十人位、ア
二十九人位、一
つだ。春年はも
実したものにして
い。

本筋度に當る。併し牛島君の演説は、少く
もその如きである。京橋が、その如きを
余があつたる点に譲り受けたのである。
の事である。原義は、
發展のためには、
のものと看作る所である。
かく、總てに於て
の条件の下に、
里へ送り置かれた。而後改め、終つて船
立つて、遠洋航行の途上であつた。船員
は、即ち船員の如きである。船員の如きは、
大いなる改善と改善の爲めに、
と共に、並せて今後
今まで、一層の發展
つて、やま全く次第
てほし

右座に坐り、解説は、
へんこん座へんこんざで行く。皮
筋切頭、内蔵優等は理
論座りんざで、もののは
多く、かえって柔しく
おさそいしものが多
いた。会場の座席、又は
刀の席に二階力及び主
けるが、その際は、
がための移設は常有
を作ったと云ふ。後
この座席は完全とは云
えないが、半端から
力のため移設せりが一
の弦に添、添、添などい
らの意を傳すのである。
改められたものと云
ふべきである。

松林堂 846 · 1669

第一回の生徒懇親会に於て、吉田、西田、太谷として任命され、それぞれ各部門を担当する事となつた。とにかく当つて、四回目の懇親会開催に際してみた。西田、大石、成田君、大石さん、吉田さん、会計担当、私の方針として特にほひいが、仄々熱意をもつて皆さんの為に努力したいと想うだけだ。

君の夜の夢と反が並んで
「夢」「金と銀」「ハンナ」
（「魔城」「魔羅」）が
演劇

第三回 演劇

卷之三

卷之三

卷之三

卷之三

卷之三

新役員の 包貿を聞く

あり、田から参入が出来
れる様子で、其の發達の、
より、層をめぐらし、小川を
成る旨意で、小川を走
尽し、努力致します。

「大金に成る事ありませぬが、今少しアソスはもう一ヶ月程で、お仕事の事で此へお見えになつたので、お手数をかけてしまふが、どうぞお許しを。」

新刊紹介

校外重大？

卓球
卓球二〇一〇佐々木(同上)
二四九
丹口二〇一〇同上
丹口二〇一〇中良(同上)
中良(同上)
丹口二〇一〇伊藤(同上)
伊藤(同上)

新刊紹介

校外重大(?)ニュース

卷之三

卷之三

文化祭全体を見て

卷之三

